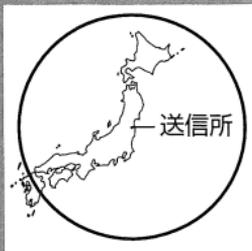


本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。  
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。  
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。  
あらかじめご了承ください。

**CASIO**

P

電波時計

**2373\* JA****取扱説明書****2373**

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。未長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いいただきますようお願い申し上げます。

本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本誌に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。

なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

## ◆本機の特長◆

### ● 正確な時刻を表示（電波時計）

日本の標準時刻をのせた長波標準電波JJY（40kHz）を受信して、正確な時刻を表示します。

### ● 六曜表示

大安などの六曜を表示します。

### ● アラーム（3本）

セットした時刻に電子音を鳴らすことができます。

### ● ストップウォッチ

1/100 秒単位で23時間59分59秒99まで計測できます。

当機種において表示される六曜データのうち、2000年1月1日～2010年12月31日までのデータに関しては、(財)日本水路協会 海洋情報室提供の旧暦表と照合したものです。2011年1月1日～2020年12月31日までのデータに関しては、上記の計算方法に基づいた略算式により算出した予測データであり、弊社独自の算出方法によるものです。

なお、大事なことを決める際には、最新のカレンダー等と併用なさることをおすすめします。

## 安全上のご注意

**絵表示について** この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

**⚠ 危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

**⚠ 警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。

**⚠ 注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

**絵表示の例**  △記号は「気をつけるべきこと」(注意)を意味しています(左の例は感電注意)。

 ○記号は「してはいけないこと」(禁止)を意味しています(左の例は分解禁止)。

 ●記号は「しなければならないこと」(強制)を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。

## ⚠ 警告

本機をスキューバダイビング(アクアラング)に使用しないでください。

※本機はダイバーズウォッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



## 電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

## ⚠ 注意

### お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

## ⚠注意

### かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

- ① 金属・皮革に対するアレルギー
- ② 時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
- ③ 体調不良等
- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

### 分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



## ⚠注意

### ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行なってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

# 目次

ライト点灯機能について	5	ストップウォッチの使い方	18
操作のしくみと表示の見方	6	計測のしかた	18
電波時計について	8	時刻・カレンダーの合わせ方	19
電波時計とは	8	セット内容	19
標準電波	8	デジタル部のセット	19
電波の受信範囲の目安	9	アナログ部(針)の修正	21
使用場所について	9	製品仕様	22
受信方法について	10	ご使用上の注意	23
自動受信のオン/オフ	11	お手入れについて	25
電波タイプの切り替え	12	電池交換について	25
受信に関するご注意	13		
こんなときには	13		
六曜表示の見方	14		
アラーム・時報の使い方	16		
アラームのセット	16		
アラーム・時報のオン/オフ	17		

## ライト点灯機能について

どのモードでも **B** ボタンを押すと文字板が約 1.5 秒間発光し、暗いところでも表示を見ることができます。



### 〈注意事項〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のためELパネルが振動するときの音で、異常ではありません。

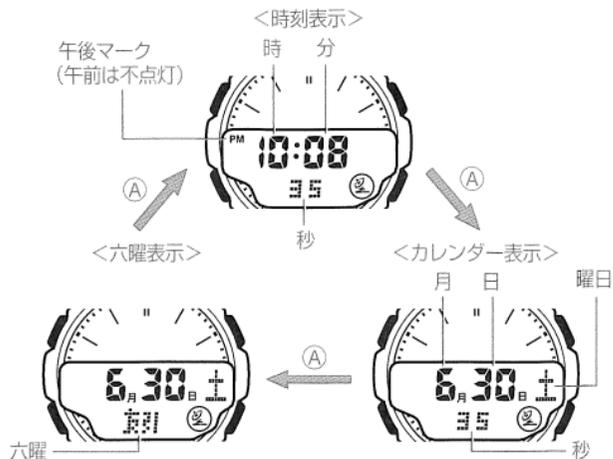
# 操作のしくみと表示の見方

※各モードでボタン操作をした後 © ボタンを押すと、  
 ※ストップウォッチモード以外で何もボタン操作をせず

直接時刻モードに戻ります。  
 2～3分間経過すると、自動的に時刻モードに戻ります。

## 時刻モード

デジタル表示は(A) ボタンを押すごとに、時刻表示とカレンダー表示と六曜表示が切り替わります。



六曜表示の見方

大安	先勝
大勝	先負
赤口	先勝
友引	先負
比叡	先勝
仏滅	先負



### ●受信確認

(D) ボタンを押すと、前回受信した時刻と月日・曜日を交互に表示します。

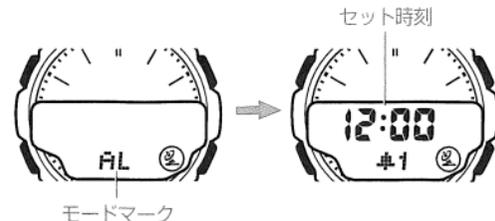


## 六曜サーチモード



P.14

## アラームモード



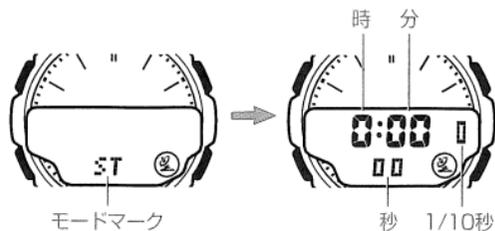
P.16

## ハンドセットモード



P.21

## ストップウォッチモード



P.18

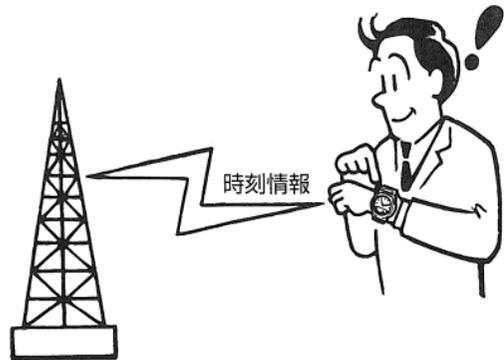
# 電波時計について

## ■ 電波時計とは

正確な時刻情報（日本標準時）をのせた標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。本機は長波標準電波 JJY（40kHz）を受信します。

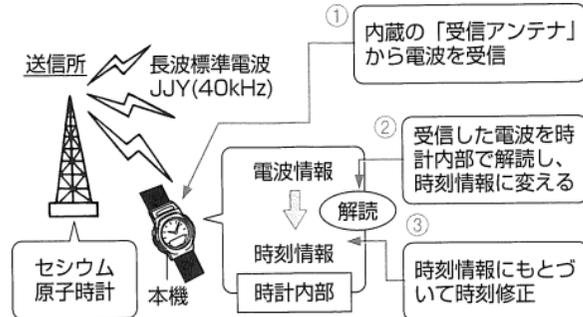
### ★ 標準時とは

日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。



## ■ 標準電波

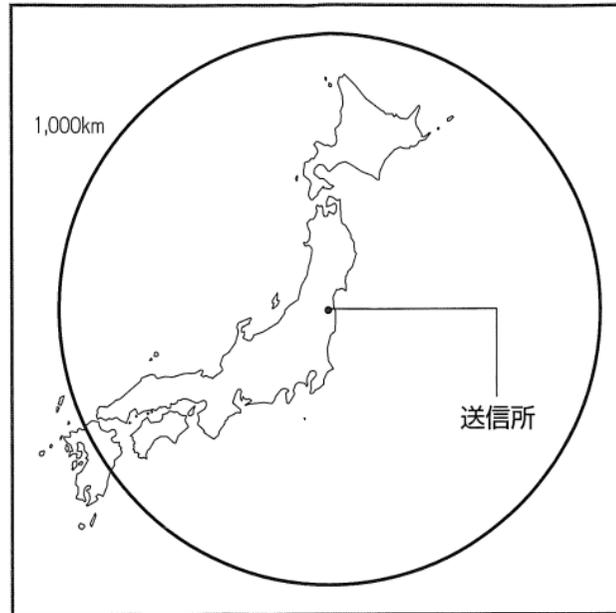
標準電波は郵政省通信総合研究所（CRL）が運用しており、長波標準電波は福島県田村郡おたかどや山の標準電波送信所から送信されます。この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。



## ■ 電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。また、受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。



## ■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中およびその周辺  
(ビルの谷間など)



高圧線、架線の近く



乗り物の中  
(自動車、電車、飛行機など)



家庭電化製品、OA機器のそば  
(テレビ、スピーカー、FAX、パソコンなど)



電波障害の起きるところ  
(工事現場、空港のそばなど)



金属板の上、山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

## ■ 受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

- 1) 自動受信 (午前2・4・6時に自動受信します)
- 2) 手動受信 (ボタンを押して手動受信します)

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

### ● 受信前の準備

受信しやすくするために、本機を腕からはずし、右図のように時計上部(12時位置のアンテナ)が立つようにして電波送信所方向に向けます。



●時計上部が電波送信所方向(9ページ参照)に対してまっすぐ向いていないと、受信しにくくなります。

- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計を動かさないようにしてください。

### ● 受信時間は?

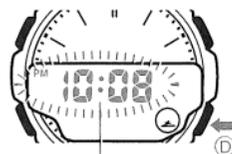
受信時間はおよそ4～11分です。

### ● 手動受信

時刻モードのとき

- ① ボタンを約2秒間押し続けます

確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は時と分が点滅します。



現在時刻

### ★ 受信を中止するときは

- ① ボタンを押します

※受信中は①ボタン以外の操作はできません。

### ★ 受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※受信マーク“☀”が点灯します。

### ★ 受信が失敗すると

時刻修正は行なわれず、手動受信のときは“ERR”を表示します。

※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードのカレンダー表示に戻ります。

### ● 受信インジケーター

受信中は受信状態によってインジケーターが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。



受信インジケーター



不安定

安定

※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

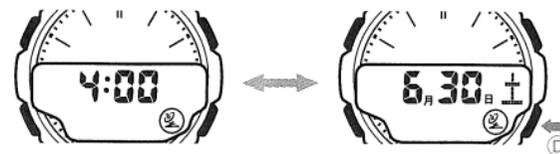
- 受信インジケーターは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

### ● 受信日時の確認

時刻モードのとき

- ① ボタンを押します

受信により最後に修正した月日と時分を表示します。  
※時刻表示に戻すには、もう一度①ボタンを押します。  
※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードのカレンダー表示に戻ります。



## ■ 自動受信のオン/オフ

### 1. セット状態にする

時刻モードのとき

- ① ボタンを約2秒間押し続けます

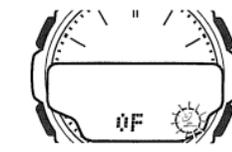
受信マーク“☀”が点滅します。



### 2. 切り替える

- ① ボタンを押します

①ボタンを押すごとに、オンとオフが切り替わります。



### 3. 切り替えを終了する

- ① ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※自動受信のオン/オフで表示を点滅させたまま2～3分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

## ■ 電波タイプの切り替え

日本においてサマータイムが実施されたときに、標準電波のコード変更が行なわれることがあります。本機は、コード変更が行なわれたときでも対応できるよう、2種類のタイプを切り替えることができます。

※コード変更の内容によっては、電波タイプを切り替えても正しく修正されないこともあります。

### 1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

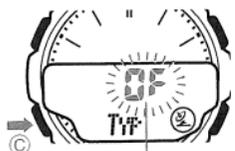
自動受信の切り替えになります。



### 2. 電波タイプ切り替えにする

Ⓑ ボタンを9回押します

オン (On) またはオフ (OF) が点滅します。

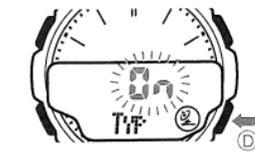


オフ

### 3. 切り替える

Ⓓ ボタンを約2秒間押し続けます

Ⓓ ボタンを押し続けるごとに、オンとオフが切り替わります。



### 4. 切り替えを終了する

Ⓐ ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※電波タイプの切り替えで表示を点滅させたまま2~3分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

●サマータイムが実施されていないときは、電波タイプをオフ (OF) のままお使いください。

●サマータイムが実施されたときの電波タイプについては、カシオテクノ・サービスステーション (本誌裏面に記載) にお問い合わせください。

## ■ 受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードでのみ行なわれます。
- デジタル時刻とアナログ針部の時刻は合わせておいてください。  
※この2つの時刻がずれていると、デジタル時刻が修正されてもアナログ針部の時刻が正しく表示されません。
- 受信中は、アナログ針部は動きませんので、時刻がずれていることがあります。
- 自動受信を行なう午前2時・4時・6時から15分程度は、ボタン操作を行なわないでください。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。  
ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯 (昼・夜) などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本で送信されている電波に合わせて設定されていますので、日本国外および日本の電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中はアラームなどの電子音は鳴りません。
- 本機のカレンダー機能は2020年までです。2021年以降は受信してもエラーとなります。

## ■ こんなときには

### 手動受信ができない

原因：時刻モード以外のときは、手動受信はできません。

処置：手動受信は時刻モードで行なってください。

### 「受信ON」に設定しているのに「☑」マークが消えている

原因：「☑」マークは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。

一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません (毎日午前3時に消えます)。自動受信時に時刻モード以外になっていた。

処置：電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。

「受信成功」しやすい環境で使用してください。自動受信を行なうときは、時刻モードにしておいてください。

また、手動で時刻修正をすると、「☑」マークは消えます。

### 電波受信をしても時刻が合わない

原因：サマータイム切り替えがオンになっているか、ホームタイム都市設定が「TYO」(東京) 以外になっていませんか。

処置：1時間進んでいるとき (DST マーク点灯) はサマータイム切り替えがオンになっています。また、大きく違っているときはホームタイム都市設定が「TYO」以外になっています。19ページからの設定をご覧になり、正しく合わせてください。

# 六曜表示の見方

六曜表示は大安・赤口・友引・先負・先勝・仏滅を表示します。

## ●六曜サーチモードに切り替える

時刻モードで **C** ボタンを1回押します。



六曜

六曜表示の見方

大安	先負	先勝
赤口	先勝	先勝
友引	仏滅	仏滅

## ●カレンダーで探す

**D** ボタンを押すごとに1日ずつ進みます。

※押し続けると連続して送ることができます。

※戻すときは、**A** ボタンを押し続けると当日に戻ります。



## ●六曜で探す

「カレンダーで探す」で探したい六曜を表示させてから **A** ボタンを押すと、次の「同じ六曜の日」を表示します。

※戻すときは、**A** ボタンを押し続けると当日に戻ります。



※六曜表示のまま2～3分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

# アラーム・時報の使い方

アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると10秒間の電子音で知らせてくれます。アラームは3本あり、いずれも同じ使い方ができます。また、毎正時(00分)にピピッと電子音で時報を鳴らすこともできます。

## ■アラームのセット

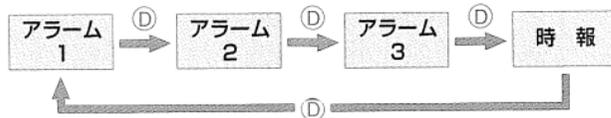
### 1. アラームを選ぶ

① ボタンを押します

① ボタンを押すごとに、以下の順に切り替わります。



アラーム番号



### 3. 「時」をセットする

② または ③ ボタンを押します

② ボタンを押すごとに1つずつ進み、③ ボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。  
※「時」のセットのとき午前/午後にご注意ください。  
※基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻も24時間制表示となります。



### 4. 「分」のセットに切り替える

④ ボタンを押します

「分」が点滅します。

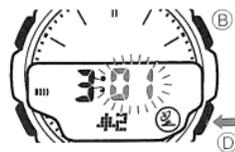


### 5. 「分」をセットする

⑤ または ⑥ ボタンを押します

⑤ ボタンを押すごとに1つずつ進み、⑥ ボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。



### 6. セットを終了する

⑦ ボタンを押します

点滅が止まります。

※アラームのセットで表示を点滅させたまま2~3分すると、自動的に点滅が止まり、アラーム表示に戻ります。

●鳴っている電子音を止めるには  
いずれかのボタンを押します。

●デモアラーム  
アラームモードで④ ボタンを押している間、電子音が鳴ります。

## ■アラーム・時報のオン/オフ

### 1. アラームまたは時報を選ぶ

① ボタンを押します



### 2. 切り替える

② ボタンを押します

押すごとにアラームまたは時報のオンとオフが切り替わります。

<アラーム>

<時報>



アラームONマーク



時報ONマーク

## ストップウォッチの使い方

ストップウォッチは1/10秒単位で23時間59分59秒9(24時間計)まで計測でき、以後、自動的に0に戻って計測を続けます。

### 計測のしかた

- ④ ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。
- 計測がストップしているときに ① ボタンを押すと、0時間00分00秒0(リセット表示)になります。
- 計測中に ① ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリットタイム(途中経過時間)計測となります。

スプリット/リセット



スタート/ストップ

### ● 通常の計測



<積算計測>

ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずに ④ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

### ● スプリットタイム計測



### ● 1着・2着同時計測

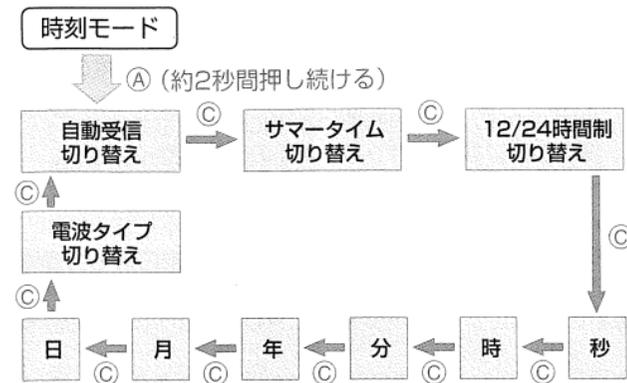


## 時刻・カレンダーの合わせ方

時刻とカレンダーは、「自動受信オン」にしておくとも自動的に正しく修正されますので、通常は修正する必要ありません。電波受信ができないときや、「自動受信オフ」にしてあるときなどは、ここで説明する操作にしたがって合わせてください。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

### セット内容



※ 時刻モードの表示に戻すには、もう一度 ① ボタンを押します。  
※ 電波受信切り替えについては11ページを、電波タイプ切り替えについては12ページをご覧ください。

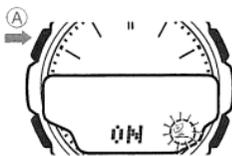
### デジタル部のセット

#### 1. セット状態にする

時刻モードのとき

① ボタンを約2秒間押し続けます

受信マーク“☀”が点滅します。



#### 2. 切り替える

③ ボタンを押します

③ ボタンを押すごとに、セット箇所(点滅箇所)が左図の順に移動します。



### 3. セットする

㊦ または ㊧ ボタンを押します



㊨ ボタンを押してセットしたい箇所を移動させ、㊦ または ㊧ ボタンを押してセットする操作を繰り返します。

※サマータイム切り替えは、㊦ ボタンを押すごとに ON と OF (オフ) が切り替わります。

※12/24時間制切り替えは、㊦ ボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示が切り替わります。

※秒合わせは、㊦ ボタンを押すと「秒」が00~29秒のときは切り捨てられ、30~59秒のときは1分繰り上がって「00秒」からスタートします。

※「時」のセットのとき、午前/午後(P)および24時間制にご注意ください。

※「年月日」は西暦で2000年1月1日~2020年12月31日までセットできます。

※曜日・六曜は年月日を合わせると自動的にセットされます。

### 4. セットを終了する

㊦ ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※時刻・カレンダーのセットで表示を点滅させたまま2~3分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

サマータイムとはDST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。

サマータイムの採用時期は都市により異なりますし、採用していない都市もありますのでご注意ください。

#### 〈シンクロ機能〉

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部の針も自動修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り(正転方向)または戻し(逆転方向)されます。

※戻し修正の場合でも送りで修正されることがあります。このときデジタル部には「」と「」が交互に表示されます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

### ■アナログ部(針)の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

#### 1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

㊦ ボタンを約2秒間押し続けます

時・分が点滅します。



#### 2. アナログ部を合わせる

㊦ または ㊧ ボタンを押します

㊦ ボタンを押すごとに時計回りに1/3分(20秒)ずつ進み、㊧ ボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。



#### 針の自動送り

●㊦ ボタンを押し続けて早送り中に㊧ ボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。

●㊧ ボタンを押し続けて早送り中に㊦ ボタンを押すと、ボタンを離しても針が戻り続けます。

●自動送りは時計が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

#### 3. セットを終了する

㊦ ボタンを押します

点滅が止まります。

※点滅表示のまま2~3分すると、自動的に点滅が止まります。

## 製品仕様

水晶発振周波数: 32,768Hz

精度: 電波受信による時刻修正が行なえない場合、月差±15秒以内

基本機能: アナログ部=時・分(2針)  
デジタル部=月・日・曜日・六曜・時・分・秒・午前/午後(P)/24時間制表示

フルオートカレンダー(2000~2020年)

電波時計機能: 自動受信(午前2・4・6時)、手動受信、受信日時リコール付、受信オン/オフ切替、電波タイプ切替

受信電波=長波標準電波 JJY  
周波数=40kHz

六曜表示機能: 先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤日表示  
カレンダーサーチ機能、六曜サーチ機能

アラーム機能: 時刻アラーム3本  
セット単位=分 電子音=10秒間  
時報 毎正時に2回電子音で報時

ストップウォッチ機能: 計測単位=1/10秒  
計測範囲=23時間59分59秒9  
(24時間計)  
通常計測、積算計測、スプリット計測

セット機能: 時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能(±30秒アジャスト)、サマータイム切替、アラームセット機能

その他: 自動復帰機能、デモアラーム、12/24時間制表示切替、ELバックライト

主要回路素子: 音叉型高性能水晶振動子、ワンチップCMOS-LSI

使用電池: CR-2016(電池別途販売)

電池寿命: 約2年

(1日あたり  
電波受信を3回、ライト1.5秒、  
電子音10秒使用した場合)

## ご使用上の注意

### ■防水性

●表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンドайビング(素潜り)	×	×	○	○

※「BAR」は気圧の意味で、防水性の高さを表わします。

※専門的な潜水=スキューバダイビング(アクアラング)での使用はお避けください。

●表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されていないもの。

防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所での使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。

●防水構造の機種はシャワー程度の温水では使用できますが、入浴等で長時間使用することはお避けください。

●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。

●防水性を保つために定期的(2~3年を目安に)なバックシン交換をおすすめします。

●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください(特殊な治具を必要とします)。

●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態では、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

### ■バンド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。

●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。

●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単にふきとることができます。

### ■温度

●自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。

●+60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

## ■ショック

- 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。

## ■磁気

- 家庭用電気製品（テレビなど）程度の磁気には影響ないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ／進みが生じることがあります。

## ■薬品類

- 水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれら含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

## ■保管

- 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

## ■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと、数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

## ■ELパネル(表示照明部)の交換について

表示照明用として使用しているELパネル（エレクトロルミネッセンスパネル）は、長期間使用しますと明るさが弱くなり、光が暗く見えることがあります。このようなときにはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

## ■抗菌防臭バンドについて

抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるものではありません。

# お手入れについて

## ■お手入れのしかた

- 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。
- 金属バンドは、時々、部分洗いをすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

## ■お手入れを怠ると

- 「サビ」
  - ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
  - ※汚れにより酸素が断られると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
  - 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。
- 「劣化」
  - 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。
- 「かぶれ」
  - 皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
  - 万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

# 電池交換について

## ■最初の電池

- 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

## ■消耗

- 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
- 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

## ■電池交換

- 電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。
- 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
- 電池交換の際、防水検査を行ないます（防水検査は別途有料となります）。
- 電池交換後はデイクォーター、テレメモのデータは消去され、プリセットされている内容が書き込まれます。

万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。